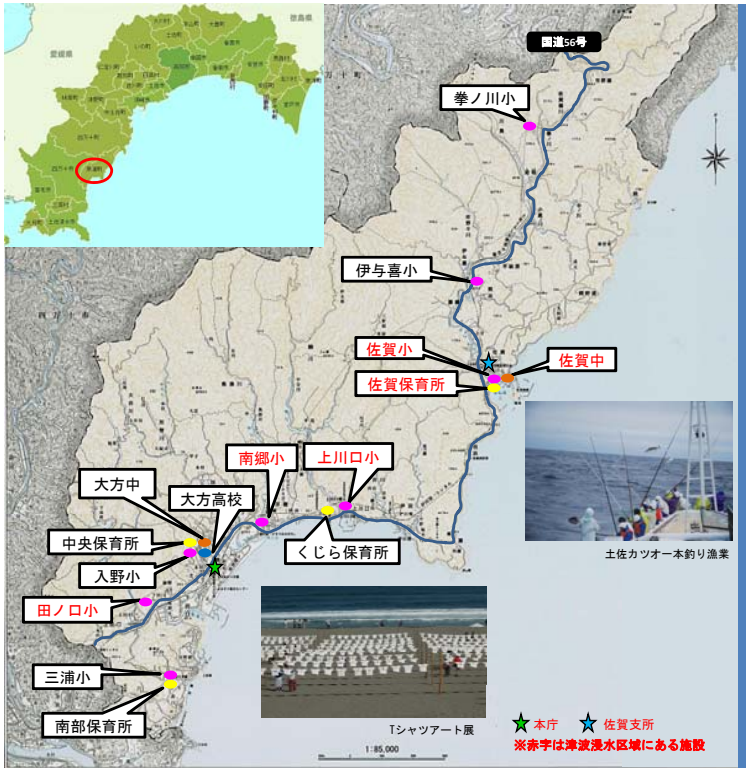
資料03-1



黒潮町の概要

■人　口　11,908人(H27.11末)

■世帯数　5,621帯

■年少・老齢人口(H27.10末)
15歳未満の年少人口　1,050人
65歳以上の老齢人口　4,803人

■産業別就業人口(H22国勢調査)
第１次産業　1,299人
第２次産業　952人
第３次産業　3,130人
分類不能　96人
就業者数計　5,477人

■人口の推移
H12　15,018
H17　14,261
H22　13,213　（住民基本台帳 3.31現在）
H27　11,908
H52　6,655～8,001　町推計

■小中学校と児童生徒数(H27.11.2)

学　校　名	児童生徒数
拳ノ川小学校	１８
伊与喜小学校	１６
佐賀小小学校	９４
上川口小学校	４２
南　郷小学校	４２
入　野小学校	１３６
田ノ口小学校	４９
三　浦小学校	５２
佐　賀中学校	８０
大　方中学校	１７７
計	７０６

黒潮町における過去の南海地震と新想定

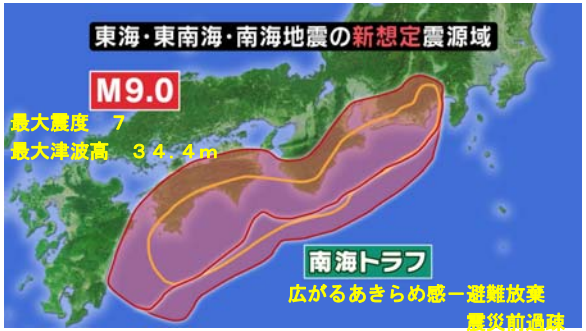
■過去の南海地震と津波の高さ

発生年	地震の名称	津波の高さ			
		佐賀地区（佐賀小校区）	上川口地区（上川口小校区）	鞭地区（南郷小校区）	入野地区（入野小校区）
１７０７年	宝永地震	６ｍ	－	８～９ｍ	－
１８５４年	安政南海地震	－	７．５ｍ	８．５ｍ	６．５ｍ
１９４６年	昭和南海地震	４．７ｍ	４．９ｍ	４．０ｍ	－

津波の高さ・・・高知県津波防災アセスメント調査報告書平成１２年３月より
－は記録なし

■昭和南海地震による被害状況・・・死者３２　負傷者６９　家屋（全壊３５４　半壊９２１　流失６０）（旧町史等より）

■24.3.31　内閣府による南海トラフの巨大地震による震度分布・津波高（第1次報告）の公表



防災の基本理念と犠牲者ゼロをめざす１７の指針

■基本理念

2012年3月31日に国が公表した「南海トラフの巨大地震による震度分布・津波高の推計」は、黒潮町にとっては、あまりにも衝撃的なものであり、多くの住民から「あきらめ」の声が聞こえ、津波からの避難そのものをあきらめる、いわゆる「避難放棄者」を多く生み出すような危機感が広がった。
「あきらめる」ことからは何も生まれない。それよりも、自分たちの住んでいる町の歴史を知り、幾度となく繰り返された過去の南海地震の甚大な被害からも、決してあきらめることなく「ふるさと」を再生してきた先人の営みに思いをはせながら、現在の科学的知見による地震・津波のメカニズムをしっかりと理解し、一人の犠牲者も出さないための南海トラフ地震・津波対策を完成させることが何よりも大切であり、今を生きる私たちの責任である。

あきらめない。揺れたら逃げる。より早く、より安全なところへ。

黒潮町における南海トラフ地震・津波の防災計画は、「避難放棄者」を出さないという基本理念をもって構築する。そのために、以下の指針を明らかにして推進していく。

■最大津波高３４ｍの町で犠牲者ゼロをめざす１７の指針

1．防災教育・啓発について
2．学校施設整備について
3．保育所施設整備について
4．拠点的公共施設について
5．指定緊急避難場所（第一次避難場所）の整備について
6．自動車を使った避難について
7．安全な住宅地の形成（高台移転等）について
8．防潮堤及び河川堤防整備について
9．情報伝達システムについて
１０．危機管理の備えについて
１１．孤立集落対策について
１２．防災新技術の導入について
１３．自主防災会の組織機能強化について
１４．防災地域担当制について
１５．耐震対策について
１６．産業防災対策について
１７．目標年次

防災教育と避難訓練

- 防災教育＝年間10時間以上
- 避難訓練＝年間 6回以上

} 義務化

※平成26年度の事例

総合／特別活動・・・地震津波に備えよう／地域に学ぶ／地震津波から命を守る／休みの安全な過ごし方／防災マップ／地震緊急速報システム／未来に向かって／災害への日常的備え／被災後にできること／助かる人から助ける人へ

道徳・・・家族愛／高齢者への尊敬／「かえるのおねがい」（低）／「大切なものはなんですか」（中）／「命てんでんこ」「海辺の町を走るバス」（高）／「バスと赤ちゃん」「（中学）

社会・・・地震の被害／地形／国土の環境／地域の産業／昔の暮らし／日本国憲法／原子力発電と環境問題／

生活・・・校舎内の安全／地区探検の交通安全／道具の使い方／地震津波への備え家庭での自分の役割／非常食体験／

体育・・・着衣水泳／マラソン／運動時の安全／運動器具の使い方

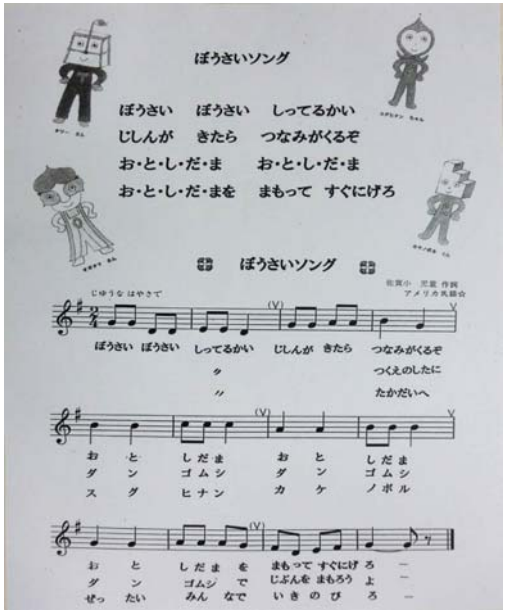
図工・・・道具の使い方／防災ポスター／

国語・・・私が選んだ今月のニュース／森林のおくりもの／メディアとの関わり／自然エネルギー／防災標語

理科・・・流れる水／天気の変化／洪水の危険　／道具の使い方／地殻変動

保・小・中合同避難訓練

・最善を尽くすこと　　・助けられる側から助ける側へ　　・日頃の関わりを大切に

楽しく防災が学べる工夫

・防災ソング
主に低学年の児童が楽しく防災を学べるように、米国の民謡「こいぬのピンゴ」のメロディを吹き替え歌にし防災ソングを完成させた。

・防災キャラクターの活用
防災キャラクターを考案し、地域の案内板や運動会で活用を図った。

学校・家庭・地域との連携

いざという時、行政にできることはわずかです。

家庭との連携
- 防災参観日
- 運動会
- 防災意識アンケート

地域との連携
- 地域学習
- 避難所運営マニュアル
- 地区防災計画シンポジウム

学校・家庭・地域が一体となった取組みを！

黒潮町津波防災教育プログラムの構成

Ⅰ津波防災教育プログラム

	全体のねらい　9年間で培い一生涯持ち続ける姿勢				
	命の教育（広義の防災教育）		知識の教育（狭義の防災教育）		避難訓練
	ねらい	学習内容例	ねらい	学習内容例	
低学年	自分の命に関わることであると理解する	①防災を「我が事」としてとらえるための学習 （例）地震が起きて、家具が倒れてきて家族が下敷きになってしまった。一人で逃げる？それとも助ける？ ②解決策を考えるための学習 （例）そうならないために日頃から何をしておけばよいのか ③考えた対応を実践（具体化）するための学習 （例）家具の固定をする。	危機を回避する力を身につける 危険に気づく力を身につける 他者を思いやる力を身につける	1年生：学校や自宅でも逃げられる 2年生：地域の安全な場所を知る 3年生：地域の危険を知る 4年生：津波が来た場合の被害を考える 5年生：安全な場所を教えられる 6年生：率先避難者になる	・在校中を想定した避難訓練 ・登下校中を想定した避難訓練 ・その他（在宅中・校外活動中など）を想定した避難訓練
中学年	家族の命に関わることであると理解する				
高学年	他者の命に関わることであると理解する				
中学生	災害文化の継承に貢献する素養を身につける		1年生：「自ら学ぶ力」を身につける 2年生：「自ら行動する力」を身につける 3年生「自ら貢献する力」を身につける	災害歴史を学ぶ 避難後の行動を考える 家庭・地域貢献を学ぶ	

Ⅱ防災教育必携　～指導のココロエ～・・・基本理念と注意点

基本理念

1. 災害から生き抜く力を育む
（1）最優先事項は、災害で命を落とさない
（2）児童生徒自身が、災害から生き抜く力を身につける
2. 自然の「恵み」と「災い」の二面性をとらえる
（1）脅かしの防災教育の限界と弊害
（2）災害に備えることはその地に住まうお作法
3. 命に関わることと捉えさせて、主体性を身につける
（1）知識の防災教育の限界と弊害
（2）防災に対する主体性を育む姿勢の防災教育
4. 一生涯つかえる災害から生き抜く力を身につける
（1）学校管理下における避難方法だけでは不十分
（2）助けられる側から助ける側へ
5. 20年かけて災害に強い地域文化をつくる
（1）防災教育は継続することが最も重要
（2）防災教育の継続は、災害に強い地域の文化をつくるプロジェクト

注意点

1. 教職員自身の自然と向き合う姿勢が問われる
（1）求められる教える側の姿勢
（2）児童生徒に伝えるための創意工夫をする姿勢こそが防災教育の本質
2. 命の問題を通して児童生徒の心を揺さぶる授業を実践する
（1）内発的な自助、共助意識を育む
（2）命に関わることとして捉えさせて実行力を高める
3. 教育活動全体を通じて防災教育の目的を達成する
（1）防災教育の枠組みだけでは目的達成に限界がある
（2）既存教科など教育活動全体を活用して生き抜く力を育む
4. 家庭や地域と連携した防災活動を取り入れる
（1）子どもは大人を見て育つ
（2）家庭、地域を巻き込み児童生徒を取り巻く環境を変えていく
5. 学校の特性を踏まえて防災教育カリキュラムを自校化する
（1）各校の特性に応じて自学化した授業計画を作成
（2）個人に依存せず、学校に定着・継続する仕組みをつくる

Ⅲ補助資料・・・自校化する際に役立つ写真・映像資料（ハザードマップ、津波シミュレーションや東日本大震災の動画など）

Ⅳ実践事例集・・・命の教育の観点も含んだ実践事例

黒潮町津波防災教育プログラムに基づいた研究授業・協議（7月/12月）

■平成27年7月15日（水）14：00～16：45　南郷小学校

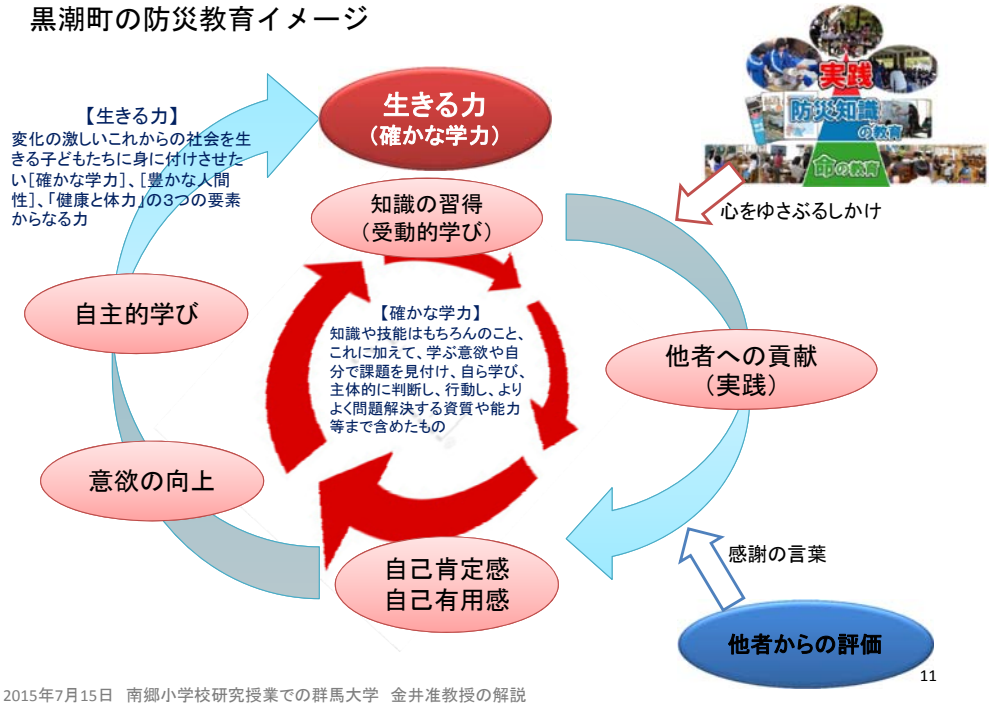
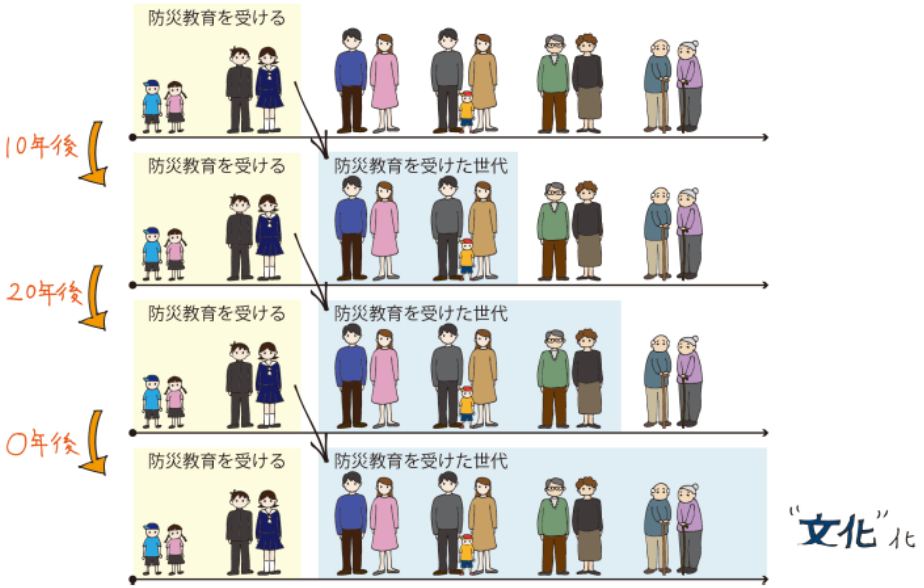
学　年	教科・領域	題　材　名
４年	学級活動	自ら判断して行動する
６年	学級活動	津波てんでんこ

研究協議
学習活動　主な発問　指導上の留意点・評価のポイントの３点について、よかった点、課題点、改善点について協議する。

■平成27年12月2日（水）14：15～16：45　佐賀中学校

学　年	教科・領域	題　材　名
１年	学級活動	緊急地震速報の仕組みと活用
２年	学級活動	備えて安心　～いざという時、助ける人になるために～
３年	総合的な学習	災害に強いまちづくり　佐賀　～中学生としてできることを考えよう～

黒潮町の防災教育イメージ



繰り返しと継続＝防災文化